

第4弾！ 労働力不足時代を迎えて、いかに存続するか？ 「労働力の国際化」こそが、唯一の生き残りの解決策だ！

※ 第1弾から第3弾となる、「三位一体大作戦」の記事について、現場指導者や管理者や経営者等から、様々なご意見を頂いた。

※ その声は、EPA受け入れと受け入れ後の受験者に対する評価等が多数あった。中には、「受験者の途中帰国問題」や、「職場での人間関係の悪さ」等も含まれており、深刻な側面を表していた。

※ 今月号で、この連載は終わるが、まとめの【国家試験対策情報・月報 81号】は、今受け入れ機関が直面している大きな問題を、「日本の人口推移に照らし合わせた」特集記事を掲載することとした。

※ 特にEPA制度の矛盾点に対する声が、全国各地の受け入れ機関で上がっており、今後大きな「労働問題の要素」となるので、今後それに注目していく。

I、【7年後(2025年)には、1.8人が一人を養うことを知っていますか？】

● 表1の2025年を考えると、現実的ではないように感じる。しかし、今年既に2018年であるので、僅か7年後には、表1では、生産人口が1.8人に対して、非生産人口が1人となり、労働力不足時代を迎える。

● 表1と表4【都道府県別有効求人倍率と高齢化状況】とを比較してみると、1.8人のうちの何%が介護分野で就労するかは、ほとんど期待できない状態であることを表している。

● 即ち、介護分野では7年後は確実に、日本人の労働力を確保することは困難であることを表している。今から労働力不足に対する対策を具体的に講じなければ、労働力不足による経営困難に陥ることは必至だ。

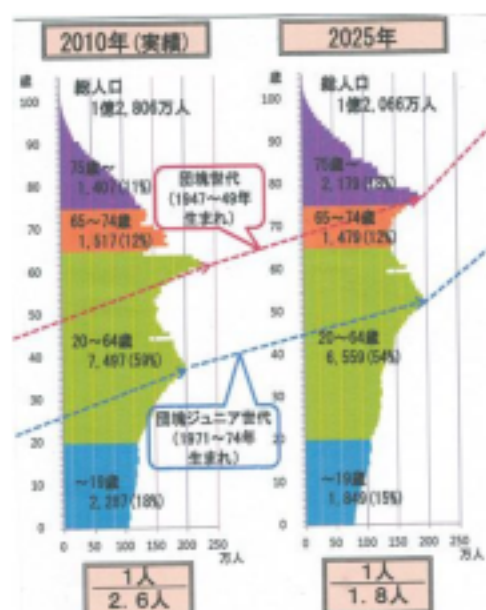
● 現在、EPA受け入れを行っている機関の中では、「育てて人材確保をする」という考えではなく、受け入れ期間だけ「使い捨て、或いは、使い回しをする」という経営方針をもっている所が多数ある。

● 上記のような経営視点で受け入れを行っている機関は、間違いなく7年後には労働力不足に陥り、【器があっても内容無し】の機関として、必然的に閉鎖に追い込まれることは、目に見えている。

● 受験者を受け入れた以上は、【三年間学習計画】に基づいた人材確保教育を行うと共に、実践力を養い、確実に「国家試験合格」を目指すべきだ。【月報】77号参照

表1、【人口ピラミッドの変化】

(出典：人口問題研究所)



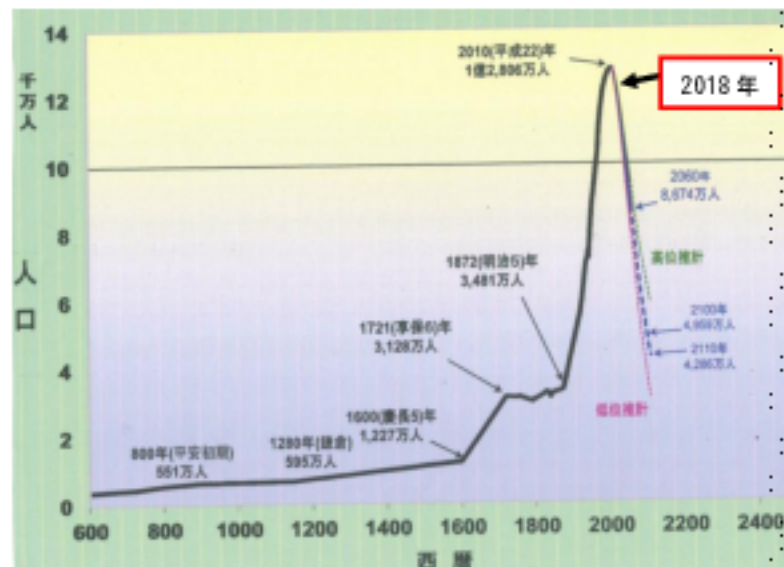
II、【2010年が頂点、以降急激な人口減少になることを知っていますか？】

● 表2【歴史的人口推移】は、表1【人口ピラミッドの変化】の基となる推移表だ。既に、本年2018年は、急激な人口減少期に入っていることがよく分かる。

さらに、将来の見通しは、高位の推計であっても、明治時代の人口までに低下し、低位の推計では、江戸時代(享保)の人口までに減少することが、統計学上で証明されている。

● この人口減少率を基に、表1【人口ピラミッドの変化】を考えると、生産人口対非生産人口の比率は急速に収縮して、近い将来には、非生産人口の方が上回ることを表している。即ち、日本社会全体における労働力の過不足がある中で、看護・介護分野における労働人口の比率は、全産業の中において低位であるために、他の産業分野より過不足が生じることは、間違いなく確実だ。

表2、【歴史的人口推移】 (出典：人口問題研究所)



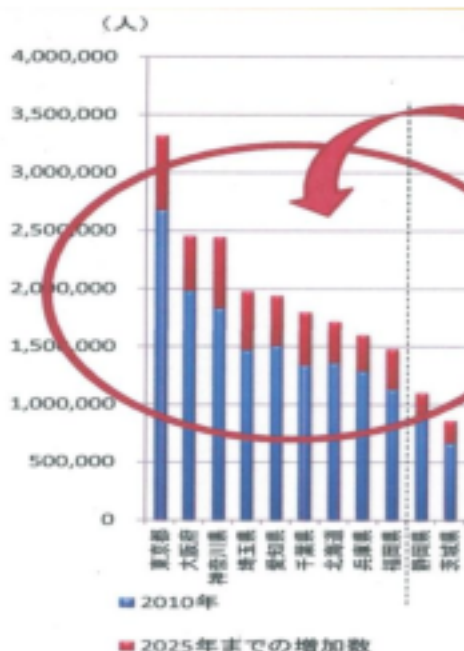
Ⅲ、【大都市に、高齢者人口が増加することを知っていますか？】

- 表3は、7年後の【高齢者人口の増加数】を表したものだ。その内容を解析すると、大都市ほど高齢者人口の増加率が大きいことが特徴となっている。
- 表1【人口ピラミッドの変化】の7年後を考慮して解析すると、明らかに大都市の介護分野では、「老老介護が定着」せざるを得ない実態を示している。一方、大都市以外の地域では、労働力確保がより困難な時代に入っているために、「老老介護」すらできない状態にならざるを得ないのが、実態だ。
- 表2【歴史的人口推移】から見ても、日本全体の人口減少による生産人口の減少で、日本社会は「日本人だけで社会を営むことが困難な時代」になっていることを認識すべきだ。この視点こそが、施設の存続の可能性を秘めているといえる。

- 前述の通り、表1と表2、そして、表3の数値の推移を解析すると、今後の日本社会全体は否応なく、外国人労働力の確保がない限り、存続ができない時代となることに気付くべきだ。
- 特に、介護分野においては、外国人労働力が無い限り、存続することは不可能な時代となる。しかしながら、単純労働の外国人確保は、介護の質を低下させて、「福祉の理念」から外れた「老人収容所」的な存在とならざるを得なくなる。
- このような状態を避けるためには、EPA制度を活用して、確実に優秀な外国人介護士の育成を計画的に行う必要がある。この努力こそが施設の存続を保障するものとなる。既に、単純労働力として外国人を検討している所もあり、これは是非、避けるべきだ。

表3、【都道府県別高齢者人口（65歳以上）の増加数】

(出典：人口問題研究所)



Ⅳ、【人材不足に対して、どう対処するか具体策を持っていますか？】

① 【7年後に備えて】

- 今年8月から【三年間学習計画】で、受験者の育成を3名ずつ行ったとしても、全員合格でも、9名だけだ。しかし、今までの合格率は50%にしか過ぎないために、4.5名しか確保できない。
- 毎年、日本人有資格者を5名以上確保できたとして、約30名となるが、現状では、これは不可能だ。

② 【日本人有資格者不足に備えて】

- 表4の【有効求人倍率】を見ると、日本人の確保率は、「0」に近いと考えるべきだ。特に有資格者は、待遇・条件によるので、破格な待遇をしない限り無理だ。
- その労働力に代わり得るのは、「質の高いEPA有資格者」以外にない。だからこそ、確実に合格者を育成して、人材確保をすべきだ。

③ 【今から労働力確保をするために】

- 労働力確保は、EPAでの確保の道しか残されていない。そして、【使い捨て・使い回しの考え】で受験者対応をすれば、必ず、7年後は労働力不足により、閉鎖に追い込まれる。
- このことを認識した上で、今から【三年間学習計画】を導入して、7年後の絶対的な労働力不足に備えて、実践しなければ、閉鎖の道を辿る。

表4、【都道府県別有効求人倍率（H29、11月）と高齢化状況】

(出典：厚労省)



(資料出所) 厚生労働省「職業安定業務統計」(注) 介護関連職種は、ホームヘルパー、介護支援専門員、介護福祉士等のこと。

75歳以上人口は、都市部では急速に増加し、もともと高齢者人口の多い地方でも緩やかに増加する。各地域の高齢化の状況は異なるため、各地域の特性に応じた対応が必要。

※ 数字は75歳以上人口。<>内は、全体の人口に占める割合。()内は、2010年との比較を倍率で示したもの。

	埼玉県	千葉県	神奈川県	大阪府	愛知県	東京都	～	鹿児島県	鳥取県	山形県	全国
2010年	58.9万人	56.3万人	79.4万人	84.3万人	66.0万人	123.4万人		25.4万人	11.9万人	18.1万人	1419.4万人
<>は割合	<8.2%>	<9.1%>	<8.8%>	<9.5%>	<8.9%>	<9.4%>		<14.9%>	<16.6%>	<15.5%>	<11.1%>
2025年	117.7万人	108.2万人	148.5万人	152.8万人	136.6万人	197.7万人		29.5万人	13.7万人	20.7万人	2178.6万人
<>は割合	<16.8%>	<16.5%>	<18.2%>	<18.2%>	<15.9%>	<15.0%>		<22.1%>	<20.6%>	<20.6%>	<18.1%>
()は倍率	(2.00倍)	(1.92倍)	(1.87倍)	(1.81倍)	(1.77倍)	(1.60倍)		(1.16倍)	(1.15倍)	(1.15倍)	(1.53倍)

現場職員の声

二年経っても、 電話での意思疎通が困難！！

- 現場担当者のEPA受験者に対する意見を、私が全部、把握しているわけではない。
その中で、受験者が利用者との対面する現場業務では、さほど困ったことなどとの声は、特段に上がっていない。
- しかしあえて言うならば、二年も経過している受験者が、まだ内部での電話対応が難しく、意味が通じなくて困るようなことがあるようだ。特に、外部との電話対応は、まだ、できる段階ではないのが、人手不足の中で困っている。

(神奈川県・H施設)

認知症利用者に対する対応が困難！

- 受験者が認知症の利用者に対応する際、ストレートすぎる日本語の話し方になってしまう。また、会話は日本語のパターンだけになってしまうために、話が続かないことが多くあるので、苦情の原因となり、悩んでいる。
- 施設では、認知症に特化した職員が受験者指導にあたって、その対応の仕方を教えているが、なかなか理解できなくて、実践できないのが実態だ。やはり、受験者の日本語力が十分でないことに原因があると思う。

(大阪府・H施設)

受験対策の対応能力が低い！！

- 1、2年目は日本語学校に通学させて、日本語学習をしていた。3年目は、介護専門の先生に依頼して指導している。N3は取得できているので、N2合格を目指した勉強をしている。しかし、3年目は、国家試験合格を目指すべきではないかと感じている。
- 国家試験問題を解かせるにあたり、文末表現、例えば、「口口ではないものはどれか」など表現の言い回しが理解できずに、また、指導する側も、表現が似たものを集めて教えているだけで、どう理解させればよいのかが、難しく悩んでいる。
- 夜勤勤務がようやく、一人だけできるようになり、業務上ではさほど問題点はないが、利用者との会話のニュアンスは、まだ理解できない所がある。

(愛知県・H施設)

今後の介護業務に耐えられるか・・・？！

- 受験者の日本語レベルが高く、現場指導で困るようなことや、問題点はないので、今のところは順調に進んでいると思う。
- しかし、現在の業務内容は、単純なものなので、今以上に、日本の介護知識が必要とされる業務になった場合には、どうなるか分からないのが、心配だ。(東京都・S施設)

文で答えられない受験者にお手上げ！

- 半年以上日本にいるが、日本語能力の伸びがなかなか見えない。会話は、単語を並べることはできるが、助詞が上手く使えないために、正しい文で答えることができない。そのため、意志伝達が不可能な状態が、一番の問題点だと思っている。
- 週一回、ボランティア教室に通学させ、施設では、担当者が学習指導をしている。しかし、日本語力には変化はなく、それを向上させることが難しいのが実態だ。
- 職員が指示した事柄などの理解度を確認するために、本人たちに復唱させながら、一つ、一つ、理解度を見て、業務指示も出しているが、受験者は文で答えられないために、本当に理解しているかが、疑問だ。この現状を打開しない限り、国家試験に合格することなど望めないと感じている。(大阪府・A施設)

【到達度試験】参加受験者の声

参加後、3か月間で大きな変化が！！

- 先生に言われた通り、テキストを大きな声で3回、必ず読んで勉強しました。「ひらがなの一と」や、「漢字ノート」を使って、勉強しました。そうしたら、フィリピンで日本語を勉強していた時と違って、英語で考えなくても、日本語が分かるようになりました。3か月間後には、患者さんやスタッフが話す日本語がよく分かりましたので、自分でもびっくりしました。
- テストは60問を60分間で、全部書くテストだから難しいけど、今では試験時間の中で全部答えられて、日本語の文も正しく書けます。そして、スタッフや患者さんとも、冗談を言ったりして、日本語だけで会話が上手にできるようになりました。

(高知県・N病院)

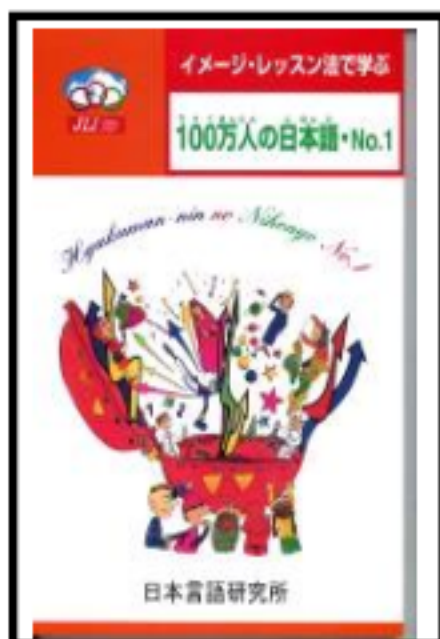
自学能力を養うための 適切な教材！！

- ① 視覚的に学べる ② 日本語の「規則性と用法」が学べる
- ③ 漢字も類推して読める ④ ストーリー性があり、体系的に作られている

EPA学習支援
スカイプ・教材の無い会館
ことばの研究社
電話：086-431-3481
FAX：086-431-3482
岡山県倉敷市庄新町 9-4-12

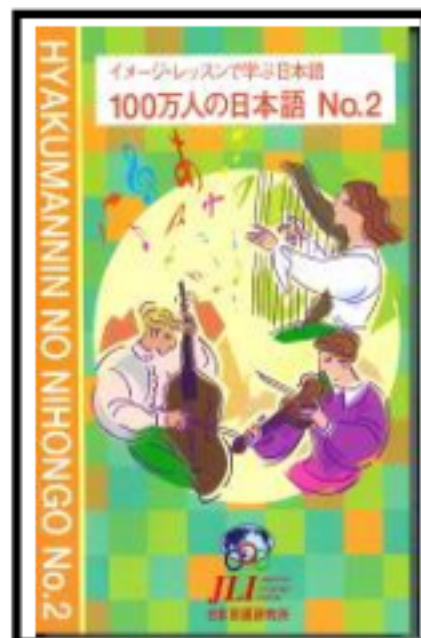
学習支援 主教材

基礎言語能力レベル



【テキスト「100万人の日本語 No.1」】
ひらがな・基本漢字の習得とともに、全ての言語活動の基本となる概念を形成し、名詞文・存在文・普通動詞文を無理なく学習できる構成となっています。(2805円)

※ 習得漢字数 310 字～620 字
※ 習得語彙数 520 語～1560 語



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】
会社や学校、家庭内などあらゆる場面における会話を中心に構成され、社会生活に必要な抽象語を理解しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。また、形容詞文学習により心情・語感表現力の基礎を築きつつ、各ページのコーナーで日本語のあらゆる規則性と用法を自学できます。(2805円)

※ 習得漢字数 420 字～840 字
※ 習得語彙数 570 語～1,710 語

生活言語能力レベル



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】

日本社会に適應できる人間関係を理解して、目上の人に対する礼節を保つ表現力が身につきます。
論理的に文を組み立てた長文が書けると同時に、漢字熟語を使った要約文を書けるようになります。
仕事に関連する語彙を自分で辞書を引いて調べることができます。(3,200円)
※ 習得漢字数 850 字～1,700 字
※ 習得語彙数 1,110 語～3,330 語

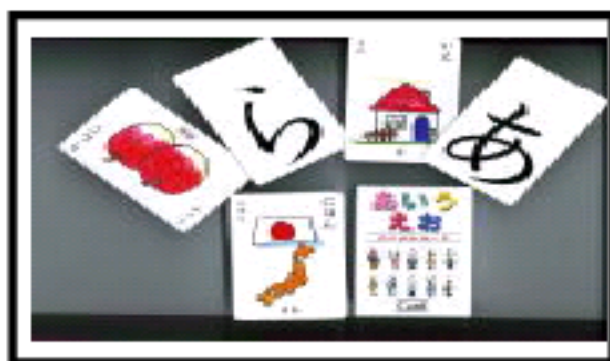
使ってみてビックリ！

教育効果の高さ

学習支援 副教材

基礎言語能力レベル

職員の手が掛からずに、
受験者だけで勉強できる教材



表面にはひらがな文字が一文字ずつ書かれており、裏面にその文字を使った語のイラストが色彩鮮やかに描かれています。

イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら自学できるつくりになっています。基礎教育の日本語学習者に最適な内容になっています。

(1,155 円)



ひらがな文字の自学に最適な教材です。字形、書き順などの練習だけでなく、全ての日本語の基礎となる「しつもとこたえ方」に絶対必要な発話方法を、身近な事例を使って学習できるようになっています。社会生活に必要な最低限の語彙も同時に習得し、定着できるように作られています。

(1,980 円)



『100万人の日本語 No.1』に沿った構成となっており、文型・成文の習得をしながら効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。

非漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適。

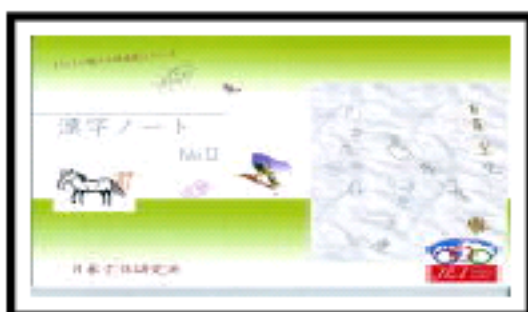
また、中国人学習者にも同様です。(1,496 円)

生活言語能力レベル



カタカナ語彙を使った場面を表すイラストが各ページにあります。このノートは説明文と会話文が織り成されてされています。この場面を紹介する文は、外来語の理解とその音出し練習をしながら、練習問題によって読解力と文型の応用力を養えるようになっています。

(1,496 円)



『100万人の日本語 No.2』に沿った構成となっており、漢字習得と成文練習のみならず、読解力も同様に養えるように作られています。

漢字の「へん・つくり」の付録もあって、漢字の成り立ちに対する理解ができる内容となっています。

非漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適。

また、中国人学習者にも同様です。(1,496 円)

◎ 到達度試験Aコース(独立型)

ことばの研究社

<自学能力養成型コース>

【一年目 到達度試験 初回レベル～Dレベル】

※ 【自学能力】を養うことを目的としたコースです。
言語能力は、日本人の中学2年生までの能力に達するようにプログラムされています。

※ 【自学能力】を養う教材を使用

主教材 ・「100万人の日本語No.1」

(日本語の規則性と用法育成用)

・「100万人の日本語No.2」

(中文読解と文脈理解育成用)

副教材 ・ひらがな絵かきど (瞬時反応能力育成用)

・ひらがなの一と (構文力育成用)

・カタカナノート (説明文・会話文の用法育成用)

・漢字の一と1 (基礎漢字と文型理解育成用)

・漢字ノート2 (熟語漢字習得育成用)

・手渡し教材随時

【二年目 到達度試験 Eレベル～国試3レベル】

※ 日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。そのため、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけでなく、文書で解答できる能力が育成できます。

※ 主教材 ・「100万人の日本語No.3」

(日本語の運用と活用育成用)

副教材 ・手渡し教材随時

・国家試験過去問題集

【三年目 スカイク授業 5回(1回2時間)】

※ 日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的としたコースです。

※ 主教材 ・専門参考書

副教材 ・手渡し教材随時

・国家試験過去問題集

【指導内容】

① 職種に合わせた専門書の理解の仕方指導

② 類推力の育成で専門用語(熟語漢字)の対応指導

③ 要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書提出し、現場の指導に役立てます。】

※ 【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※ スカイク授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※ ※ 価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

一 年 目	★基礎言語能力の育成 ①日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。 ②1,755語の基本漢字が習得できて、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。 ③会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。	●日本語能力を養う ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで、できるようになる。 ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できるようになる。 ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができるようになる。 ④簡単な業務日誌が書けるようになる。
二 年 目	★生活言語能力の育成 ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。 ②仕事を自主的に行い、責任を持って業務を遂行する能力を養う。 ③日本語力を高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。	●国家試験受験能力を養う ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えられるようになる。 ②専門用語の漢字を「類推して読解」できるようになる。 ③自学で「過去問」ができるようになる。
三 年 目	★職域言語能力の育成 ①日本語を使った「業務実践力」を行える能力を養う。 ②会議等で意見を発言し、内容把握ができる能力を養う。 ③要約力を養い、会議等で的確なメモをとれる能力を養う。 ④日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養う。	●国家試験合格能力を養う ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できるようになる。 ②日本事情の専門知識を体系的に把握して読み理解できるようになる。 ③マークシートの解答ではなく文書による解答ができるようになる。

◎ 到達度試験Bコース(併用型)

< おまかせコース >

【一年目 到達度試験(初回~Dレベル)+スカイプ】

※【自学能力】を養える【到達度試験】と対面教育ができる「スカイプ授業」を併用しています。

日本人の中学2年生までの能力に達するプログラムで、特に、正しい会話力が身につけられるコースです。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材・「100万人の日本語No.1」

(日本語の規則性と用法育成用)

・「100万人の日本語No.2」

(中文読解と文脈理解育成用)

副教材・ひらがな絵カード(瞬時反応能力育成用)

・ひらがなの一と(構文力育成用)

・カタカナノート(説明・会話文の用法育成用)

・漢字の一と1(基礎漢字と文型理解育成用)

・漢字ノート2(熟語漢字習得育成用)

【二年目 到達度試験(E~国試1レベル)+スカイプ】

※日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。

スカイプ授業併用型なので、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけでなく、文章で解答できるようにプログラムしています。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材・「100万人の日本語No.3」

(日本語の運用と活用育成用)

副教材・手渡し教材随時・国家試験過去問題集

【三年目 到達度試験(国試2,3レベル)+スカイプ】

※日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的としたコースです。

日本人の職員と同等に業務ができるまでの能力に達するように、プログラムしています。

また、国家試験合格後でも、同じ職場で働く意欲を養うことも目的としています。

※主教材・専門参考書

副教材・手渡し教材随時・国家試験過去問題集

- 【指導内容】
- ① 職種に合わせた専門書の理解の仕方指導
 - ② 類推力の育成で専門用語(熟語漢字)の対応指導
 - ③ 要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書を提出し、現場の指導に役立てます。】

※【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※スカイプ授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※※価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

★基礎言語能力の育成

- ①スカイプ授業を併用するために、対面学習で、適切なプロの指導が受けられる。そのために、確実な日本語力が養える。
- ②日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。
- ③1,755語の基本漢字を習得でき、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。
- ④会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。

●日本語能力を養う

- ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで到達できる。
- ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できる。
- ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができる。
- ④簡単な業務日誌が書ける。
- ⑤スカイプ授業は、受験者の表情を教師が読み取れるので、「本当に理解しているか、どうか」が判断でき、確実な言語能力がつく。

★生活言語能力の育成

- ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。
- ②仕事を自主的にやり、責任を持って業務を遂行する能力を養う。
- ③日本人の高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。
- ④日常会話力が支障なく使える能力を養う。

●国家試験受験能力を養う

- ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えることができる。
- ②専門用語の漢字を「類推して読み、意味理解」できる。
- ③自学で「過去問」を解ける。
- ④スカイプ授業併用型なので、問題・疑問が、その場で解決できる。

★職域言語能力の育成

- ①業務の実践力を養う。
- ②会議で意見を発言して内容把握でき、メモをとる能力を養う。
- ③話の内容を的確に、まとめる能力を養う。
- ④日本人社会人と同等レベルの言語能力を養う。
- ⑤スカイプ授業なので日本人感覚の「語感・語調」を、正しくプロの教師が養う。

●国家試験合格能力を養う

- ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できる。
- ②日本事情の専門知識を体系的に把握して、読み理解できる。
- ③マークシートの解答ではなく、文章による解答ができる。
- ④専門語彙と専門知識を自学できる。

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】 EPA学習支援 こぼの研究社

【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い、言語技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は介護分野では、国家試験合格者を **3年間連続で、80%以上の実績を誇っています。** また、看護分野でも、EPA受験者全体の合格率が10%前後に留まっているのに対して、【到達度試験参加者】の合格率は、**55%**と高い水準を保っています。

これは、**受験者全体の合格率10%の5倍の高さ**を示しており、驚異的な合格率といえます。

※ 本試験は、あくまでも、専門領域で社会人として働ける能力を養うことを、重要視した学習方法です。

さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、介護施設や病院などで実践力のある要員として、育成することを目的としています。

※【到達度試験参加者】には、定期的に試験結果を「考察票」でお送り致します。「考察票」には、指導者用のために、具体的な指導方法を記しておりますので、安心してご指導頂けます。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類	合格
3段階	75 % 専門学校卒の 言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」 に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・ 瞬時反応 ・ 文脈読解力 ・ 要約力など	職域言語能力を養う
2段階	90 % 専門学校 2 年 の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」（漢字 熟語）と「文脈読解力」に対応できる学習を させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応 ・ 漢字熟語力 ・ 文脈読解など	
1段階	90 % 専門学校 1 年 の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」 （語彙力・文意力）に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
F段階	85 % 高校 3 年の 言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で 学習させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	生活言語能力を養う
E段階	80 % 高校 1 年の 言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・ 文読解力 ・ 図読解力など	
D段階	75 % 中学校 2 年の 言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 対応力 ・ 要約力など	
C段階	70 % 小学校 6 年の 言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文脈力 など	基礎言語能力を養う
B段階 N2レベル	70% 小学校 4 年の 言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な 知識とその使い分け」ができる能力を中心 として学習させる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 読解力など	
A段階 N3レベル	75 % 小学校 3 年の 言語能力	・ 構文力・読解力・文字（ひらがな・カタカナ・ 漢字）・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文字認知力 ・ 読解力など	
初回		受験者の現状の日本語能力を観る。		